

2014年3月期 通期決算概要

ルネサス エレクトロニクス株式会社

2014年 5月 9日

本日のご説明内容

- I. 2014年3月期 通期 決算概要
- II. 2015年3月期 第1四半期 業績予想
- III. 利益成長に向け、根底からの変革を推進

エグゼクティブサマリー（通期決算および業績予想）

2014年3月期 通期 決算概要

- 半導体売上高は、自動車や産業機器向けが年間を通じて堅調を維持したことと円高の是正により、前期比10%増の7,968億円となった
- 営業損益は、売上増に伴う利益増に加えて、構造改革による固定費削減効果が大きく、676億円を計上
- 当期純損益は、下期で75億円の黒字化を達成し、通期では53億円の赤字となり、前期から1,623億円改善

2015年3月期 第1四半期 業績予想

- 半導体売上高は、前四半期および前年同期と比べ微増の1,960億円を見込む
- 営業損益は、事業・生産構造改革の実行効果などにより収益力が改善し、200億円を見込む
- 四半期純損益は、前四半期から黒字転換し140億円を見込む

I. 2014年3月期 通期 決算概要

2014年3月期 通期 決算概要

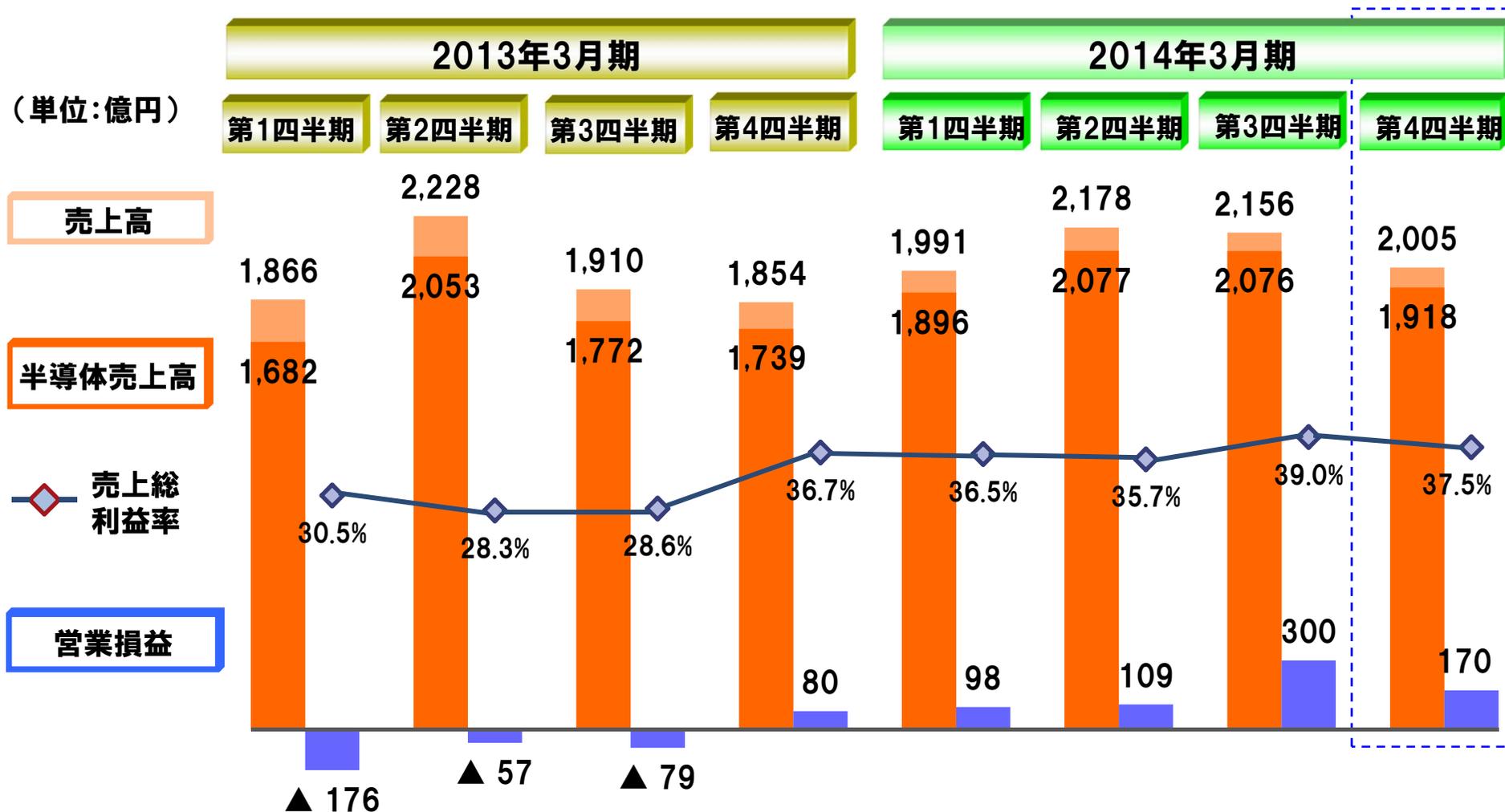
- 通期の半導体売上高は、自動車や産業機器向けが年間を通じて堅調を維持したことと円高の是正により、前期比10%増の7,968億円
- 通期の営業損益は、構造改革による固定費削減効果が大きく、676億円を計上
- 当期純損益は下期で75億円の黒字化を達成し、通期では53億円の赤字となり、前期から1,623億円改善
- 第4四半期は、季節性要因あるも、自動車や産業機器向けの堅調な出荷が続き、売上高・損益ともに想定比上振れ

		2014年3月期							
(単位:億円)		第4四半期	前年同期比	前四半期比	予想比	下期	通期	前年度比	予想比
売上高		2,005	+151 (+8.2%)	▲151 (▲7.0%)	+105 (+5.5%)	4,161	8,330	+472 (+6.0%)	+105 (+1.3%)
売上総利益(率)		752 (37.5%)	+71 (+0.8Pt.)	▲88 (▲1.5Pt.)	—	1,592 (38.3%)	3,097 (37.2%)	+669 (+6.3Pt.)	—
半導体売上高		1,918	+179 (+10.3%)	▲158 (▲7.6%)	+68 (+3.7%)	3,995	7,968	+721 (+10.0%)	+68 (+0.9%)
営業損益		170	+89	▲130	+130	469	676	+909	+129
経常損益		154	+67	▲140	+144	447	586	+855	+144
四半期純損益		▲155	▲96	▲384	+165	75	▲53	+1,623	+165
(参考)特別損益		▲275	▲174	▲266	+15	▲283	▲481	+828	+16
1US\$=		103円	14円 円安	4円 円安	2円 円安	101円	100円	18円 円安	1円 円安
1ユーロ=		141円	23円 円安	7円 円安	3円 円安	137円	133円	27円 円安	1円 円安

※表記されている桁数未満を四捨五入しております(以降のページ同様)

四半期業績推移

- 半導体売上高は、季節要因により前四半期比減も前年同期比では10%増
- 営業損益は、構造改革による固定費削減が寄与し、5四半期連続で黒字を確保



2014年3月期 半導体売上高の事業別状況①

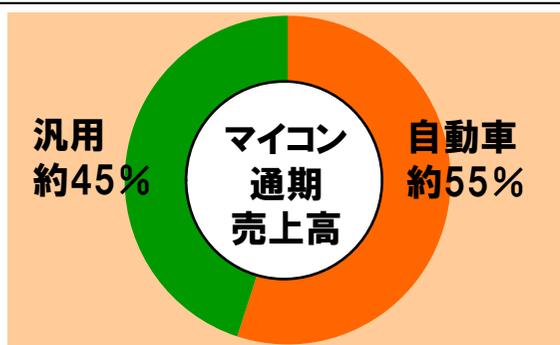
- 第4四半期は、季節要因あるも自動車や産業機器向けの堅調な出荷が続き、マイコンは前期比横ばい
- 年間を通じて自動車や産業機器向けが堅調を維持したことにより、通期のマイコンとアナログ&パワーの売上高は前期比で10%半ばの伸長

2014年3月期

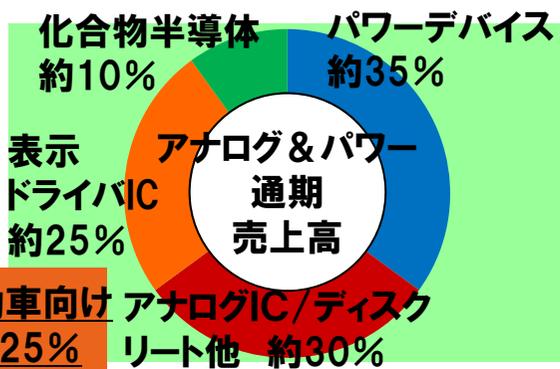
(単位:億円)

	第4四半期	前年同期比 (%)	前四半期比 (%)	通期	前期比 (%)
半導体売上高 計	1,918	+10.3%	▲7.6%	7,968	+10.0%
マイコン	892	+15.0%	▲0.7%	3,536	+15.9%
アナログ&パワー 半導体(A&P)	625	+14.4%	▲13.7%	2,725	+15.9%
SoC	388	▲0.5%	▲11.4%	1,648	▲5.0%
その他半導体	13			59	

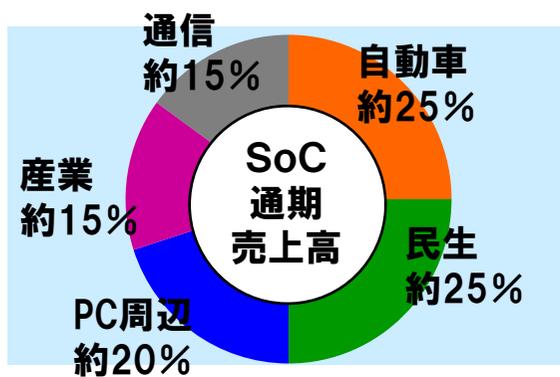
2014年3月期 半導体売上高の事業別状況②



- 自動車向けマイコンは、エコカー補助金の終了や中国向け自動車の生産減の影響を受けた前期に対し、今期は年間を通じて堅調を維持し、前期比約15%の増収
- 汎用マイコンは、世界的市況停滞が続いた前期に対し、設備・インフラ投資の活性化、景況感の回復による個人消費増の結果、特に産業、民生を中心に売上が増加し、前期比約15%の増収



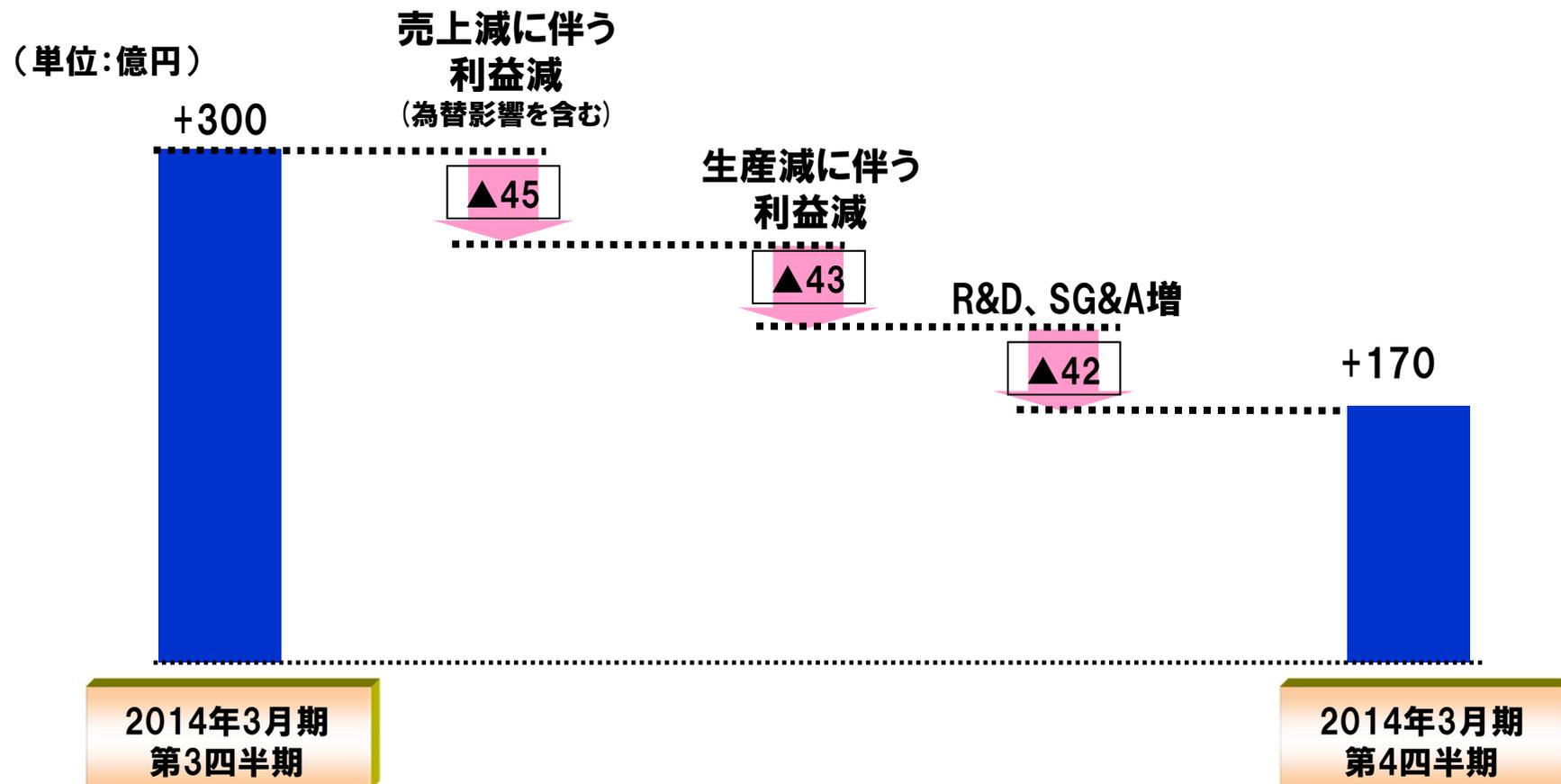
- 自動車向けは、パワーデバイス、アナログICともに年間を通じて堅調を維持し、前期比で20%以上の増収
- 表示ドライバICは、スマートフォン向けが急拡大し、前期比で増収
- 汎用向けは、アナログICは微減も、パワーデバイスは微増



- 自動車向けは、カーナビなど車載情報機器向けが年間を通じて好調で前期比約50%の増収
- 民生、通信向けは、注力事業への集中により前期比で減収

2014年3月期 第4四半期 営業損益（前四半期比）

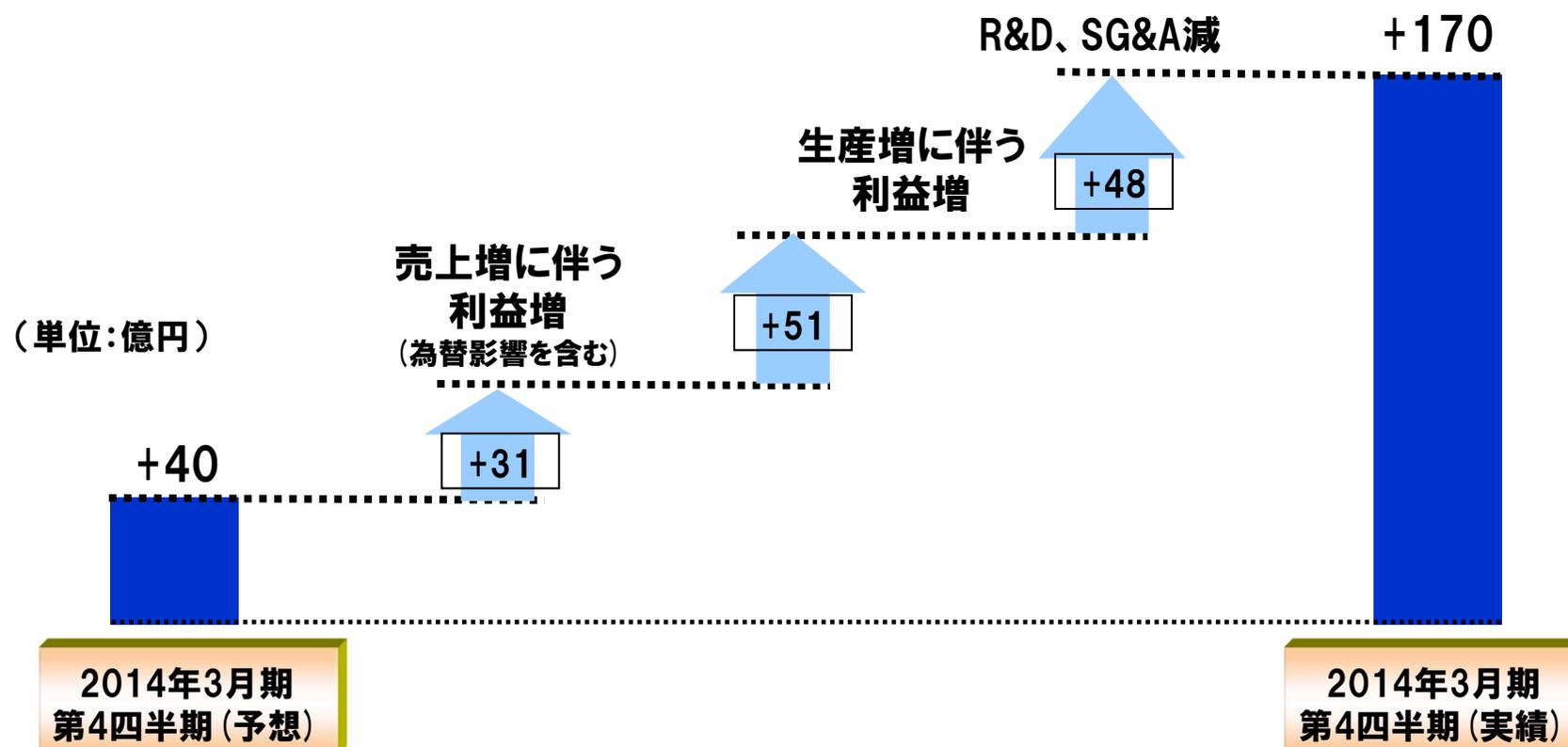
- 売上減および生産減に伴う利益減に加え、期末での費用増が発生したが、営業損益は黒字を確保



*R&D:研究開発費 *SG&A:販売費および一般管理費

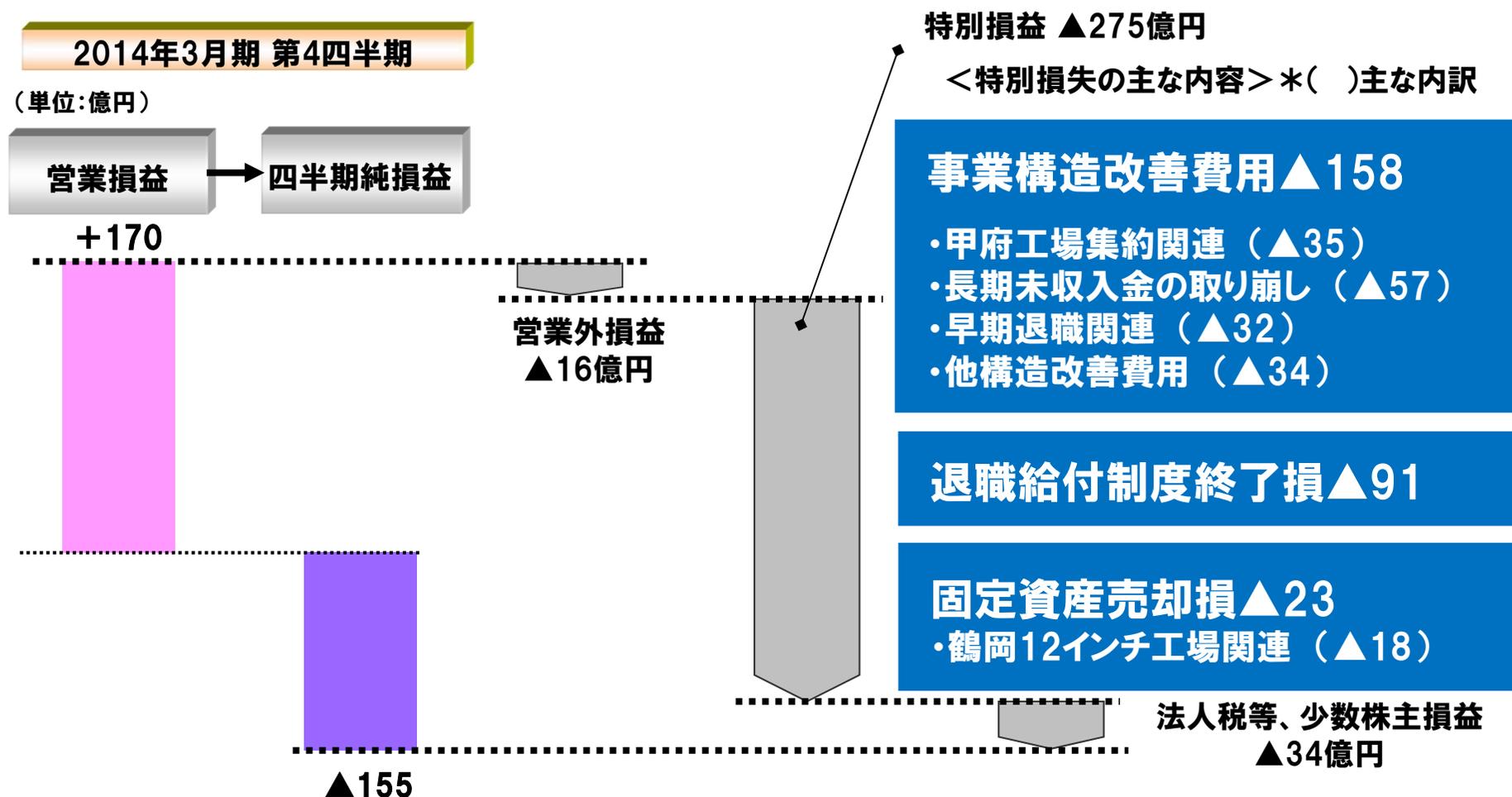
2014年3月期 第4四半期 営業損益（2月6日予想比）

- 売上増および生産増に伴う利益増に加え、収益志向の徹底による費用発生抑制などにより、想定比では130億円改善



2014年3月期 第4四半期 四半期純損益

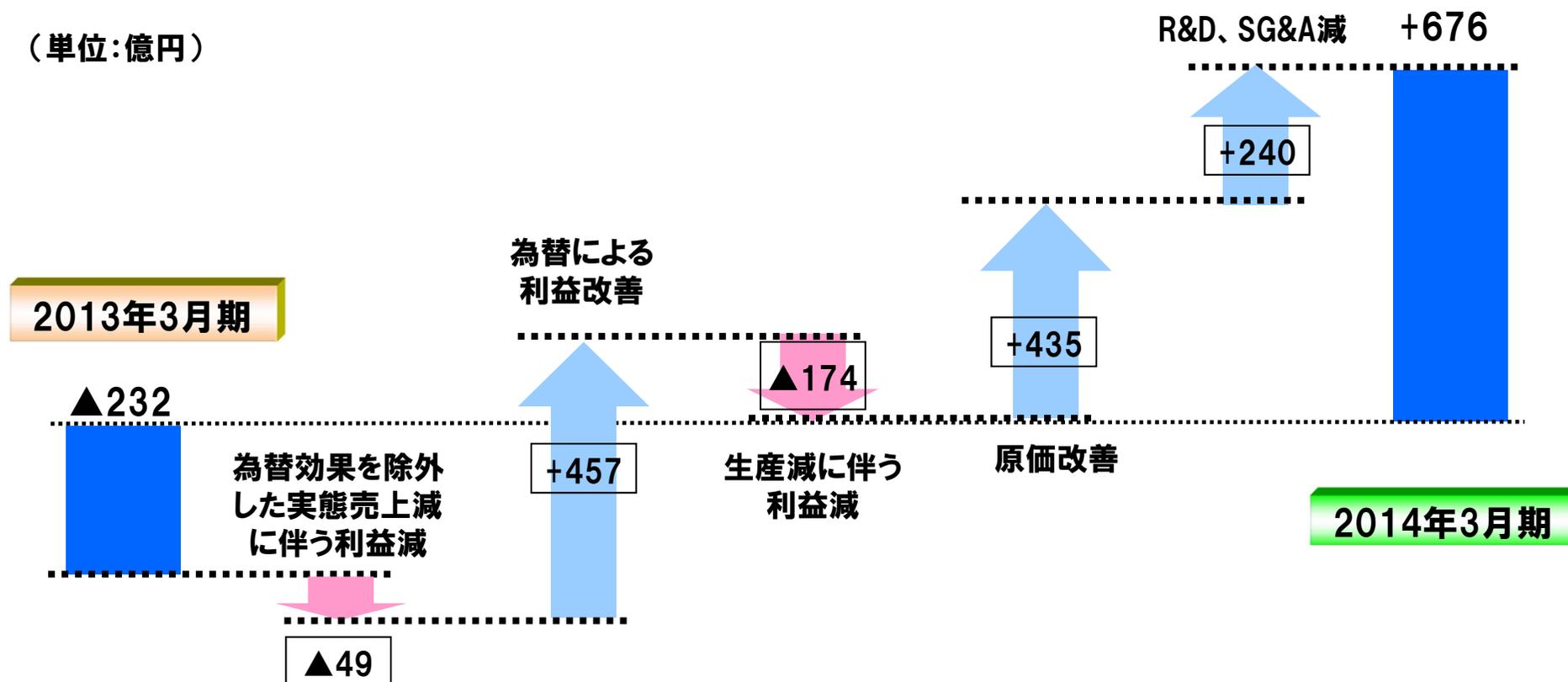
- 営業損益は黒字を確保したものの、事業・生産構造改革の実行や年金統合による退職給付制度終了損などにより、275億円の特別損失を計上し、当期純損益は155億円の赤字



2014年3月期 通期 営業損益（前期比）

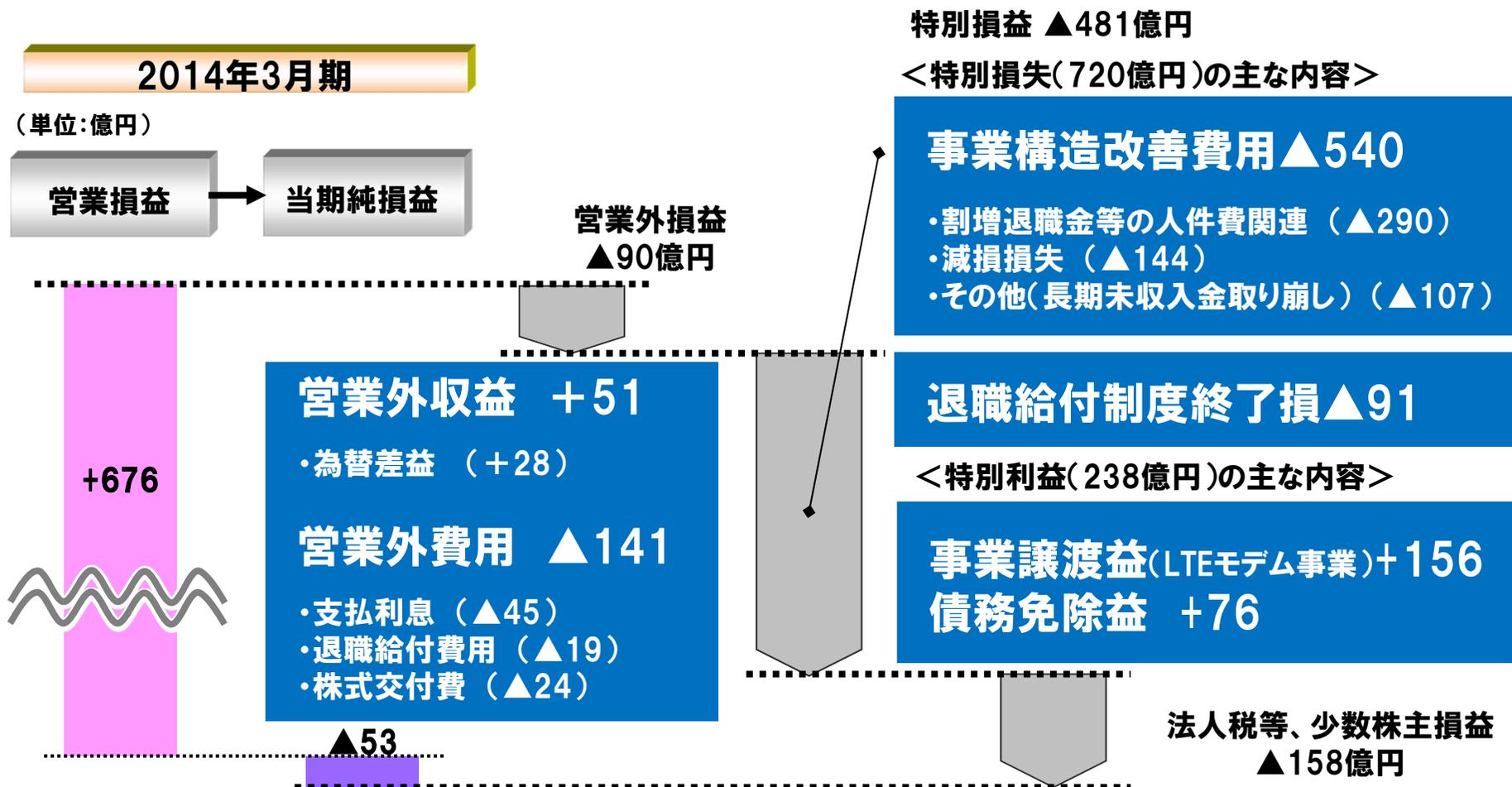
- 円高の是正により売上が増加したことに加え、事業・生産構造改革の実行などにより収益構造が改善し、営業損益は909億円改善

（単位：億円）



2014年3月期 当期純損益

- 事業譲渡益や債務免除益などの特別利益を238億円計上した一方、事業構造改善費用を中心とした特別損失を720億円計上したことにより、53億円の当期純損失を計上



バランスシートの状況

■ 自己資本比率は30%前後に向上し、前期比で財務体質は大幅に改善

(単位:億円)	13/3末	13/12末	14/3末
総資産	6,691	7,958	7,860
うち 現金及び現金同等物	777	2,660	2,659
うち たな卸資産	1,513	1,285	1,261
負債合計	5,912	5,436	5,587
うち 有利子負債	3,064	2,809	2,709
株主資本	758	2,360	2,206
純資産合計	779	2,522	2,273
D/Eレシオ(グロス)	4.59倍	1.17倍	1.26倍
D/Eレシオ(ネット)	3.43倍	0.06倍	0.02倍
自己資本比率	10.0%	30.2%	27.3%

(注)①現金及び現金同等物:「現金及び預金」と「有価証券」の単純合算値から「預入期間が3ヶ月を超える定期預金」を控除しております。

②有利子負債:「短期借入金」、「1年内返済予定の長期借入金」、「リース債務」、「長期借入金」

③自己資本:「株主資本」、「その他の包括利益累計額」 ④D/Eレシオ(グロス):有利子負債/自己資本

キャッシュ・フローの状況

- 構造改革の推進により営業利益を確保し、2014年3月期のフリー・キャッシュ・フローは全四半期で黒字を確保、通期では745億円と前期から大幅に改善

(単位：億円)	2013年3月期	2014年3月期				
	通期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	通期
営業活動による キャッシュ・フロー	▲541	284	90	339	224	937
投資活動による キャッシュ・フロー	▲432	▲25	▲65	▲34	▲68	▲192
フリー・ キャッシュ・フロー	▲973	259	25	305	156	745

II. 2015年3月期 第1四半期 業績予想

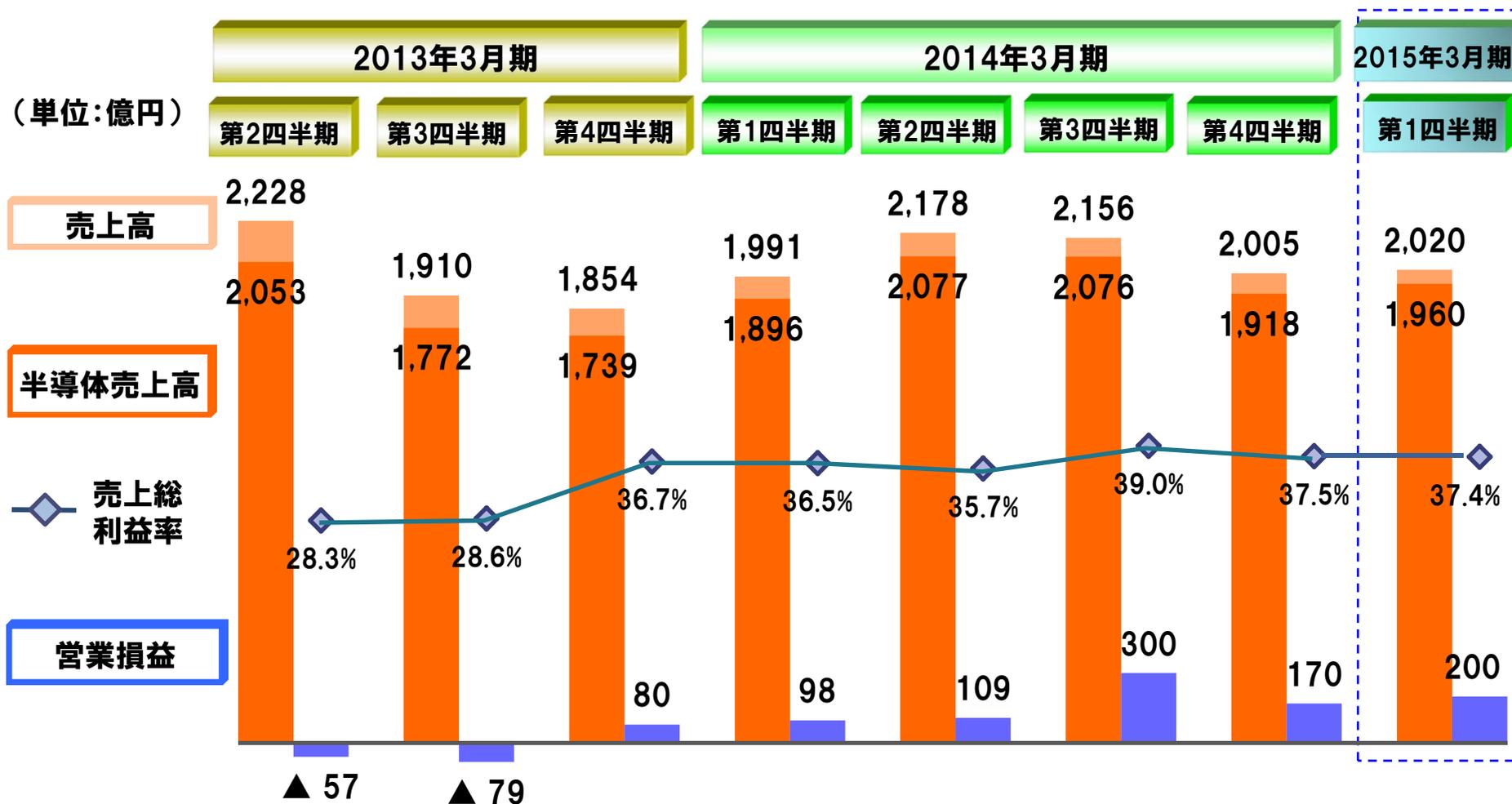
2015年3月期 第1四半期 業績予想

- 半導体売上高は、前年同期と比べ3.4%増の1,960億円を見込む
- 営業損益は、事業・生産構造改革の実行効果などにより収益力が改善し、200億円を見込む
- 四半期純損益は、140億円と前四半期から大幅な改善を見込む

(単位:億円)	2014年3月期	2015年3月期		
	第1四半期 (会計)	第1四半期予想 (会計)	前四半期比	前年同期比
売上高	1,991	2,020	+15 (+0.7%)	+29 (+1.5%)
売上総利益(率)	727 (36.5%)	755 (37.4%)	+3 (▲0.1Pt.)	+28 (+0.9Pt.)
半導体売上高	1,896	1,960	+42 (+2.2%)	+64 (+3.4%)
営業損益	98	200	+30 (+17.9%)	+102 (+104.5%)
経常損益	85	175	+21 (+13.8%)	+90 (+105.0%)
当期純損益	▲40	140	+295	+180
(参考)特別損益	▲87	▲10	+265	+77
1US\$=	98円	100円	3円 円高	2円 円安
1ユーロ=	127円	136円	5円 円高	9円 円安

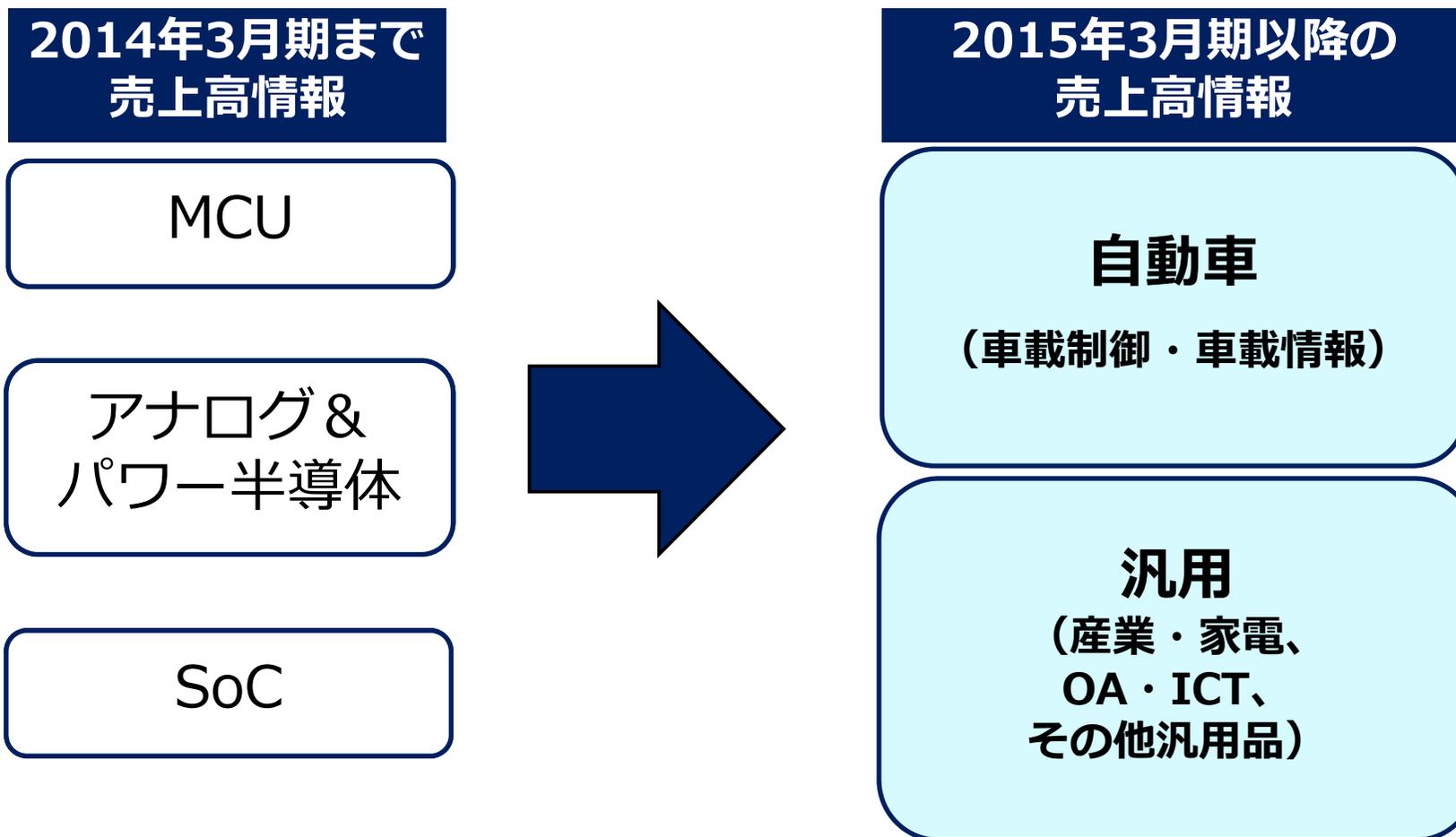
四半期業績推移

- 2015年3月期第1四半期の半導体売上高は、前四半期および前年同期と比べ微増の見通し
- 営業利益は事業・生産構造改革の実行効果などにより前年同期と比べ倍増する見通し



事業ドメインの変更による開示情報の変更について

- プロダクト体制からアプリケーション体制へ事業ドメインを変更したことに伴い、開示情報を変更



*OA(Office Automation)

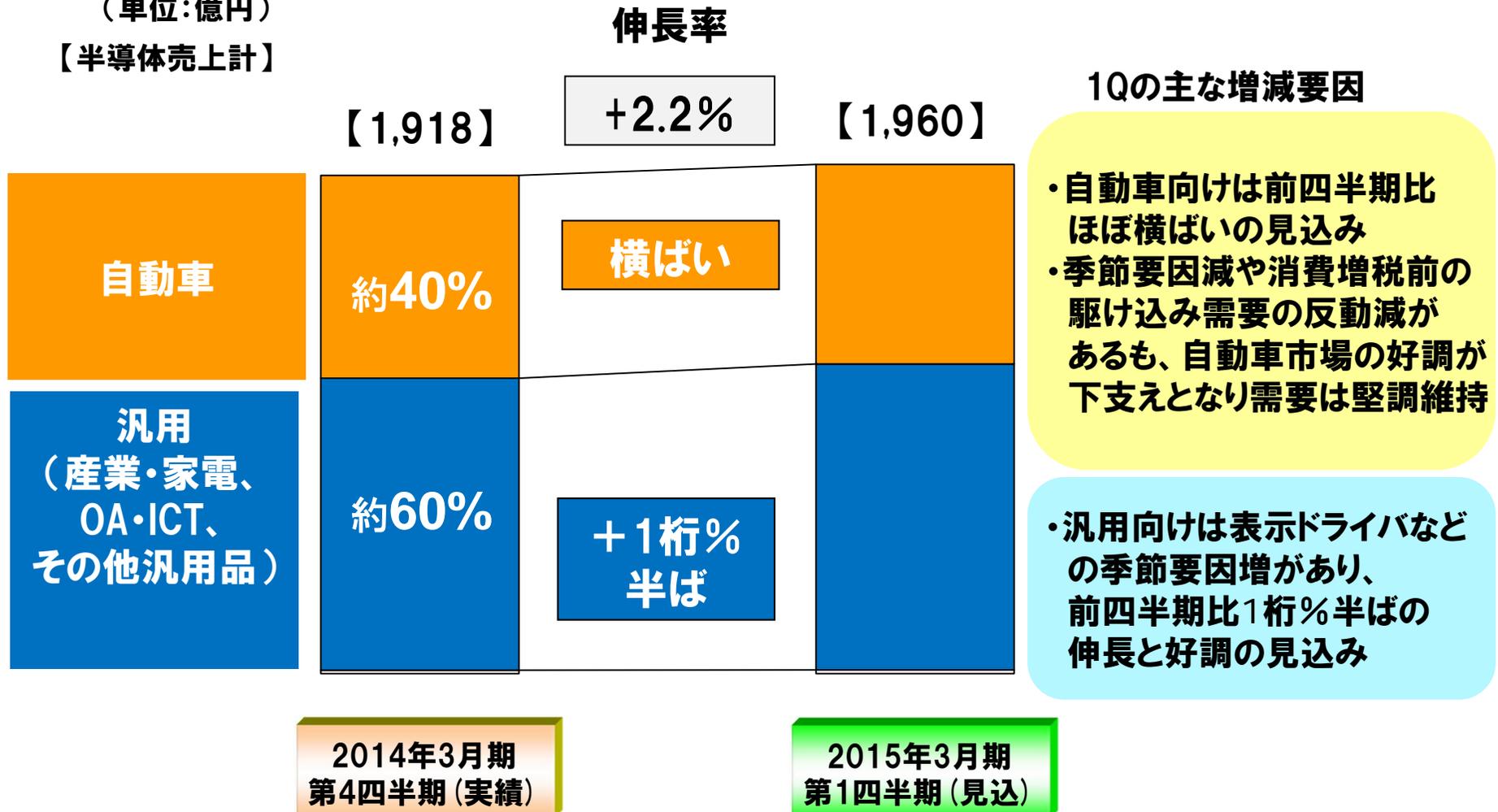
*ICT(Information and Communication Technology)

2015年3月期 第1四半期 半導体売上高 見通し(前四半期比)

- 堅調な自動車向け需要および表示ドライバなどが下支えし
第1四半期の半導体売上高は前四半期比2.2%増の見込み

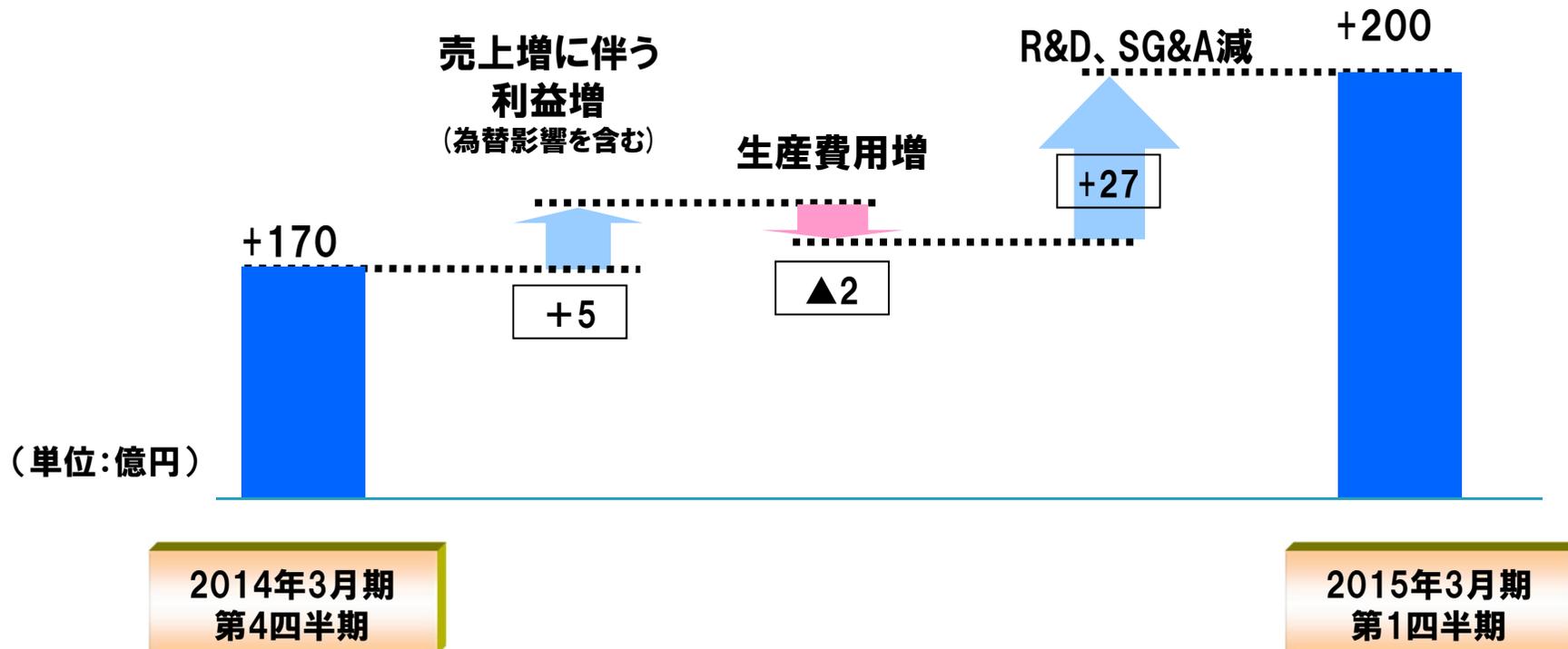
(単位:億円)

【半導体売上計】



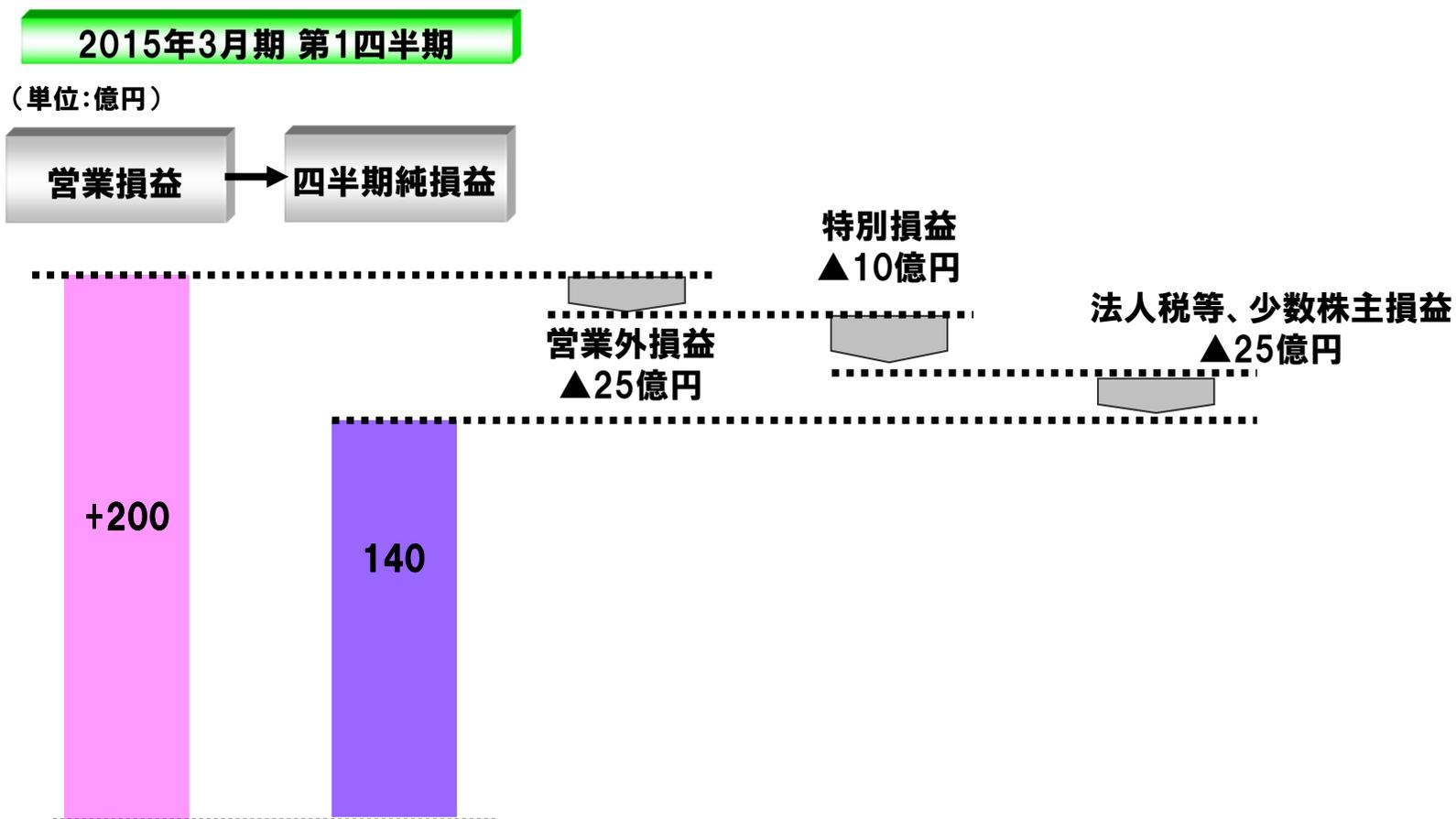
2015年3月期 第1四半期 営業損益 見通し(前四半期比)

- 売上増による利益増に加え、期末費用集中の反動もあり前四半期で増益を見込む



2015年3月期 第1四半期 四半期純損益 見通し

- 第1四半期は事業構造改善費用などの大きな特別損失を見込んでおらず、140億円の黒字の見通し



III. 利益成長に向け、根底からの変革を推進

「当社グループが目指す方向性について」
(新体制発足後2013年8月に公表)

当社グループが担う社会・産業の発展における重要な使命を認識

これを実現するために

事業の選択と集中

強い事業へ注力

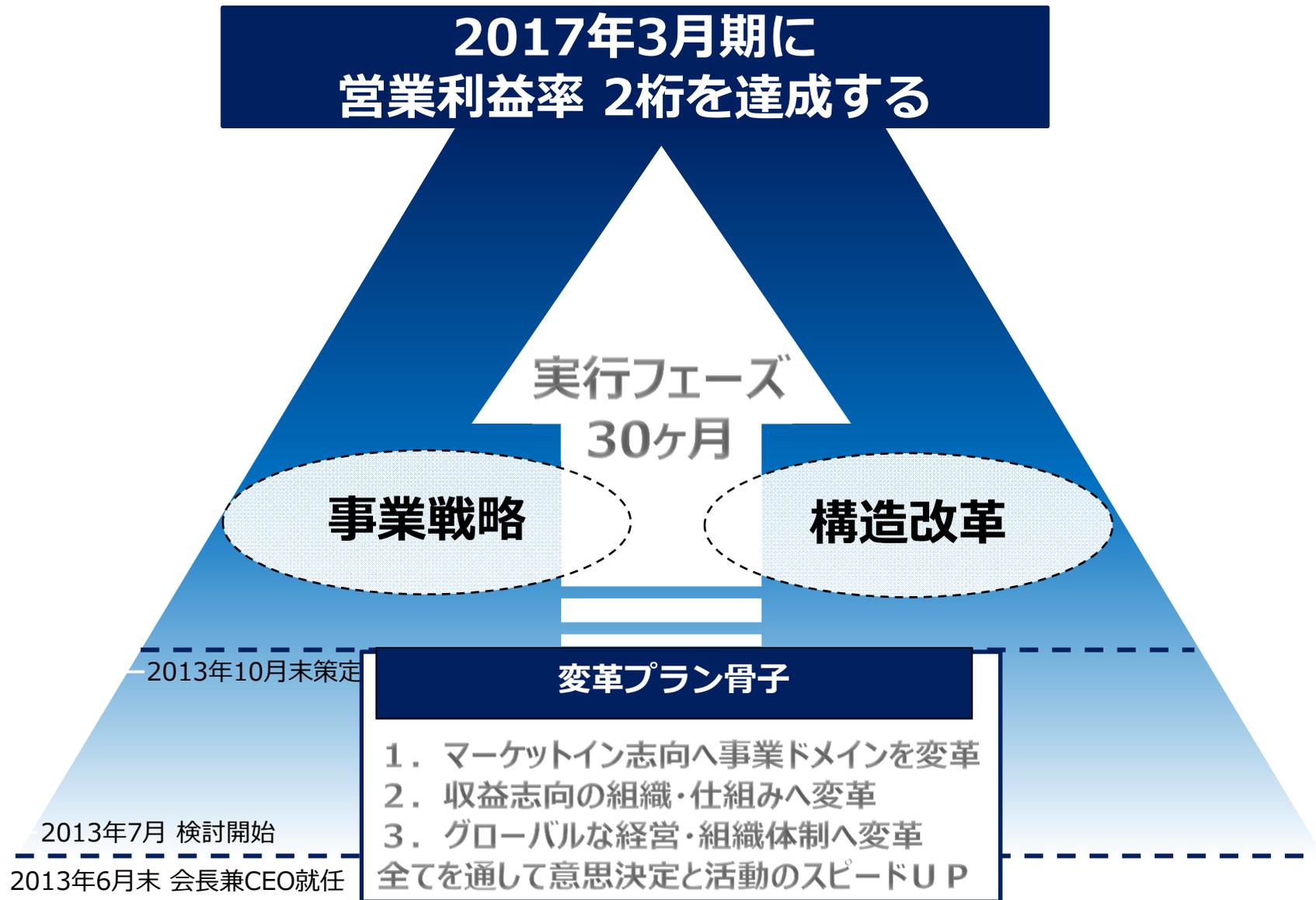
構造改革

利益を創出し確固たる永続性を構築

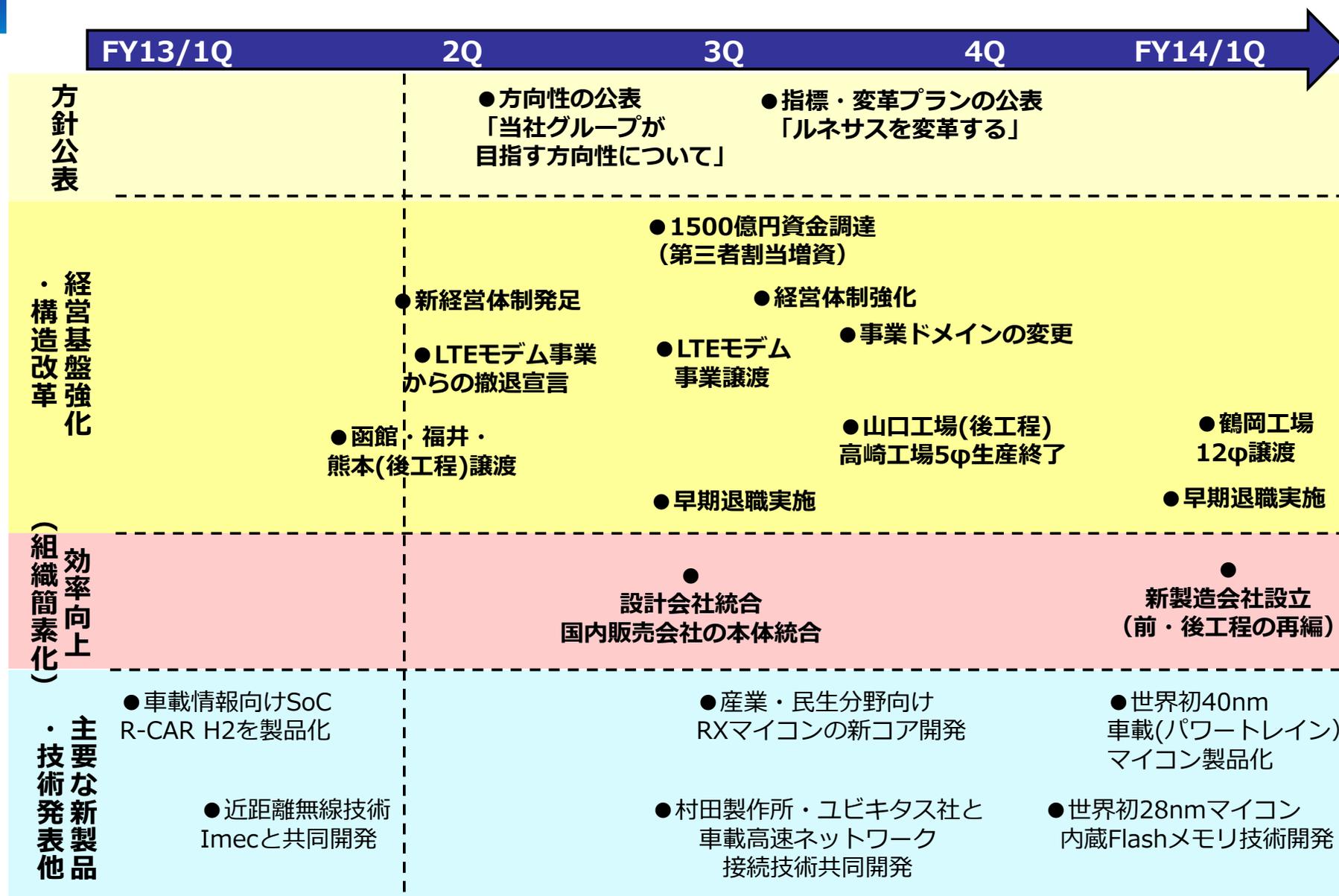
事業・生産構造改革を支える業務オペレーションの変革

経営リソースの最適化

目指す方向性を実現するための「変革プラン」を策定(2013年10月)



目指す方向性に向けた当社の取り組み -構造改革を着実に推進中-



利益成長の為の対処すべき課題

変革プラン施策の確実な実行

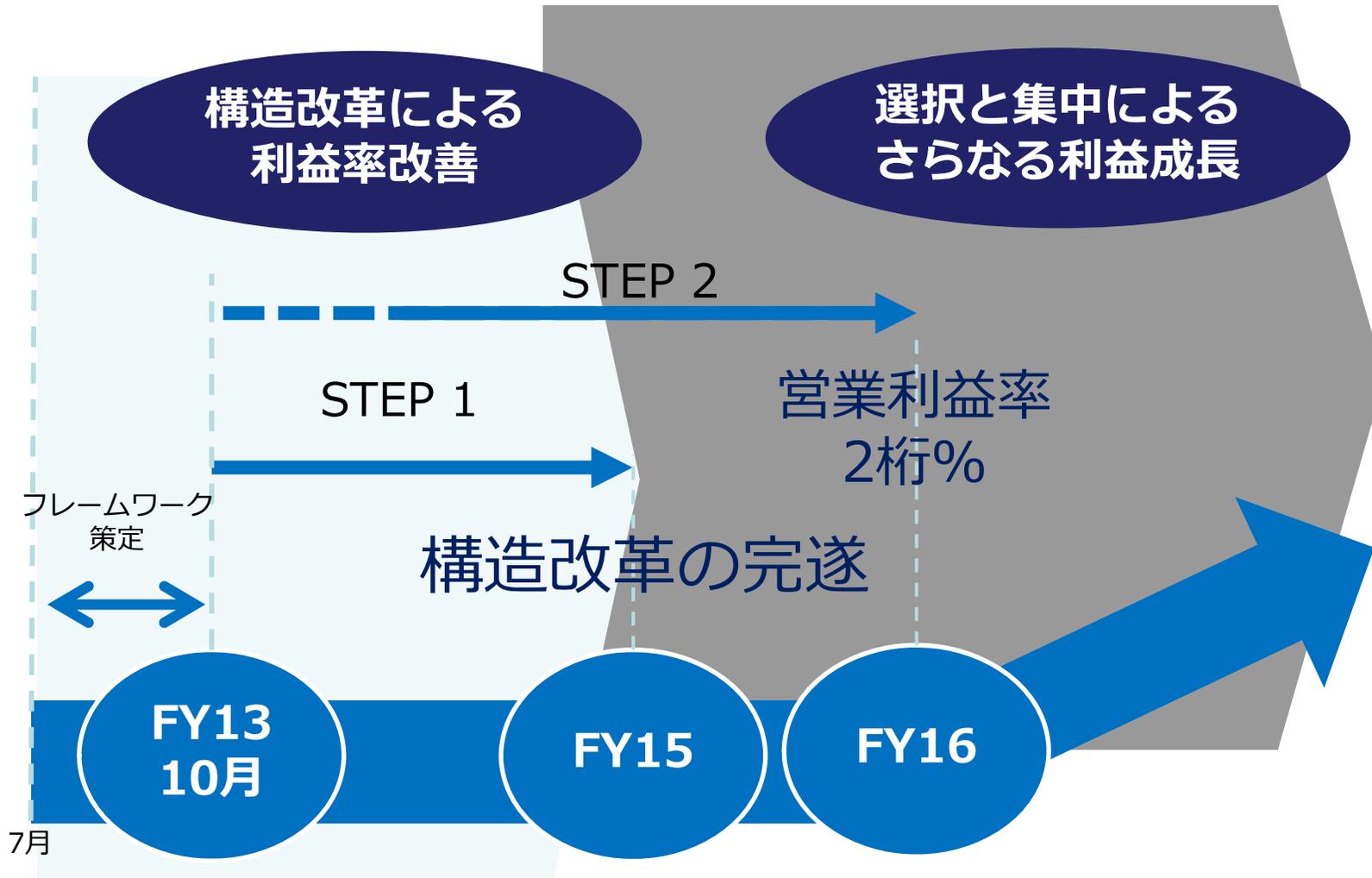
- ① 構造改革による利益率改善
- ② 事業の選択と集中による更なる利益成長

- ・ 生産構造改革の確実な推進
- ・ 事業ドメインに合わせた設計リソースの再配置
- ・ 当事者意識の醸成と徹底

利益成長に向け、根底からの変革を推進

安定して収益を確実に出せる企業体質へ

- まずは構造改革を完遂し、グローバルに勝ち残れる企業を目指す



(将来予測に関する注意)

本資料に記載されているルネサス エレクトロニクスグループの計画、戦略及び業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づきルネサス エレクトロニクスグループが判断しており、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、実際の業績等は、様々な要因により、これら見通し等とは大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因としては、(1)ルネサス エレクトロニクスグループの事業領域を取り巻く日本、北米、アジア、欧州等の経済情勢、(2)市場におけるルネサス エレクトロニクスのグループ製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、(3)激しい競争にさらされた市場においてルネサス エレクトロニクスグループが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを供給し続けていくことができる能力、(4)為替レート(特に米ドルと円との為替レート)の変動等がありますが、これら以外にも様々な要因がありえます。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当初の見通しと異なる結果となる可能性もあります。

The logo for Renesas Electronics Corporation, featuring the word "RENESAS" in a stylized, blue, sans-serif font. The letter "R" is larger and more prominent, with a distinctive shape.

ルネサス エレクトロニクス株式会社

© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.